

氏 倍因

心理新說

井上哲次郎抄譯
大槻文彦校訂

第三

□ 7
3145
3



井上哲次郎 抄譯
大槻文彦 校訂

版權所存

倍因氏 心理新說

東京 同盟舎



倍因氏 心理新說目次

卷之三

情緒論

第一 感應ノ總論

(一) 各種ノ情緒ハ、知力ニ關ス

(二) 感應ノ定義

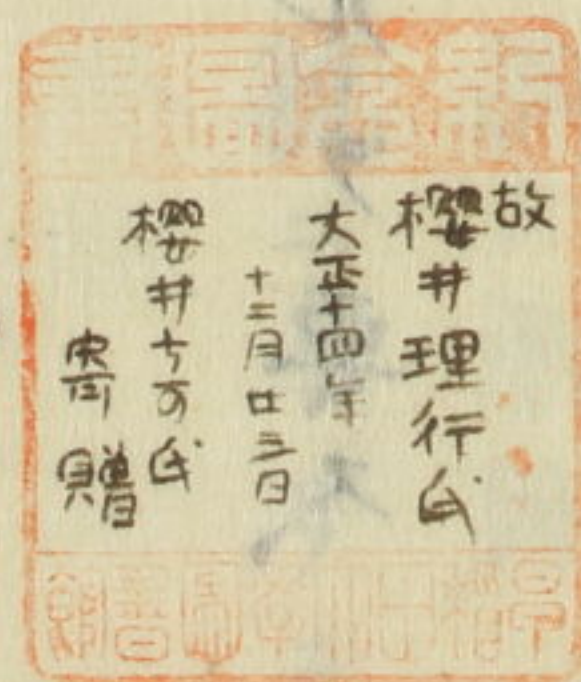
(三) 感應ハ、身体上ト心意上トヨリ之ヲ

察スルヲ要ス

感應ノ資性

(四) 感應ニ四箇ノ資性アリ

感應ノ情緒性



門 口 7
3145
卷 3

心理新説 卷之三 后 盟 舎

- (五) 感應ハ、各、身体上ヨリ觀ルヲ得、
- (六) 心意上ニハ、性質、度位、并ニ特性アリ、
感應ノ執意性、
- (七) 意志ハ、感應ニヨリテ發動ス、
- (八) 知力性ノ感應ハ、辨別、契合、把住ノ三
識ト相關ス、
- (九) 預想ノ何タルヲ察スルヲ要ス、
- (十) 願望、
- (十一) 依信上ニ勢力ヲ及ボス感應ハ、混

- (三) 合性ノモノトス、
 - (十二) 他人ノ感應ハ、其状貌ニヨリテ之
ヲ察スルヲ要ス、
 - (十三) 外面ノ表識ハ、感應ノ關鍵ナリ、
 - (十四) 行狀ハ、快樂苦痛ノ如何ヲ示ス、
 - (十五) 思想ノ經過ハ、感應ノ印象ニ由ル、
- 第二 情緒及ビ其彙類
- (一) 情緒ハ、初發ノ感應ニアラズ、
 - (二) 情緒ヲ彙類スルノ法、
 - (三) 情緒ノ彙類、

心理新説 目次 二

第三 相對ノ情

- (一) 驚奇ノ情ヲ起ス外物
 - (二) 心意上ノ資性、激蕩ニテ起ス
 - (三) 驚奇ト相對スル苦痛
 - (四) 驚駭
 - (五) 愕怛
 - (六) 抑制并ニ自由、ハ激蕩ノ開闢ナリ
 - (七) 自由ハ抑制ト相對ス
- 第四 恐怖ノ情、并ニ恐怖ヲ起ス原因、
- (一) 恐情ノ情、并ニ恐怖ヲ起ス原因、
 - (二) 身体上ノ状態

(三) 心意上ノ状態

(四) 恐怖ノ種類

第五 柔和ノ情

- (一) 柔和并ニ此情ヲ起ス外物
 - (二) 身体上ノ状態
 - (三) 心意上ノ状態
 - (四) 柔和ノ情ノ種類
- 第六 主我ノ情、二種ノ感應ヲ包含ス、
- (一) 主我ノ情ハ、二種ノ感應ヲ包含ス、
 - (二) 卓越セル性質ノ我ニ存スルヲ覺知

第三スルヨリ起ル感應

(三) 身体上ヨリ之ヲ觀ル

(四) 心意上ヨリ之ヲ觀ル

第五此類ノ感應ニ屬スル各種ノ形狀

(六) 之ト相反スル苦痛ノ情

(七) 承讚心

(七) 承讚心ハ他人ノ同情ニ因リテ増進ス

(八) 承讚心ノ種類

第九承讚心ト相反スル苦痛ノ情

第七 權勢ノ情

(一) 權勢ノ情ハ我ノ彼ヨリ優等ナルヲ

覺知スルヨリ生ズ

(二) 身体上ノ状態

(三) 心意上ノ状態

(四) 此情ノ種類

(五) 賤弱ノ情ハ權勢ノ情ト相反ス

第八 憤恚ノ情

(一) 憤恚ノ情ハ苦痛ヲ感スルヨリ起ル

(二) 忿怒ヲ起ス外物

(三) 身体上ノ状態

(四) 心意上ノ状態

(五) 忿怒ノ種類

第九 追求ノ情

- (一) 追求ノ情ハ、目途ニ近ククニ生ズ、
- (二) 身体上ノ状態、
- (三) 心意上ノ状態、
- (四) 機運ト前途ノ不定ナルトハ、共ニ追求ノ情ヲ添フ、

第十 知力ノ種類

- (一) 知力ノ作用、
- (二) 接近律ノ作用、
- (三) 矛盾ノ為メニ生ズル苦痛、

(四) 駁雜中ニ類似ヲ認識スルノ快樂

第十一 同情

- (一) 同情ハ、他人ノ感應ヲ想見スルヨリ起ル、
- (二) 同情ヲ生ズルニハ、必ず先ツ要スルコトアリ、
- (三) 同情ハ、有ハ意模倣ノ類ナリ、
- (四) 同情ヲ助成スル事項、
- (五) 同情ノ極度、
- (六) 同情ノ際限、
- (七) 我が感應ハ、他人ノ同情ニヨリテ益固定ス、

(八)同情ハ間接ノ快樂トナル

第十二 理想ノ情

(一)理想ハ過去ノ感應ヲ保持スルニ因

リテ起ル

(二)身体上ノ作用

(三)性氣ノ差

(四)體質ノ差

(五)理想ヲ助成スル心意上ノ要因

(六)現在ノ實事ニ因リテ起ル感應

(七)理想ノ情ハ右ノ數條ニ因リテ多少

アリ

倍因心理新説卷之三



井上哲次郎 抄譯

大槻 文彦 校訂



情緒論

第一、感應ノ總論

(一)凡ソ感應ハ、感覺情緒ノ二大部分ニ分ツ者ナルガ、今此ニハ情緒ノミヲ論ゼントス、然ルニ之ヲ論ゼンニハ、先ツ感應ノ資性ヨリ始ムルヲ便ナリトス、
感覺ハ外物ノ觸ル、ヨリ起ルモノニテ、知力

ニ關スルコト最モ少シ、即チ初發ノ感應ナリ、各種ノ情緒ハ、皆派生ノモノニテ、知力ニ干涉スル者ナリ、
 (三) 正面ヨリ之ヲ觀レバ、感應ハ快樂、苦痛及ビ此二者ニアラザル感動ノ状態ヲ包含ス、反面ヨリ之ヲ觀レバ、意志并ニ知カト相反ス、

若シハミルトン氏ノ如ク、快樂苦痛ノ二者ノミヲ以テ感應トスル片ハ、決シテ十分ナリトスベカラズ、何ントナレバ、快樂苦痛ノ二者ニアラザル感動ヲモ感應トスレバナリ、

元來心意ニハ、唯三種ノ官能アリ、感應、執意、及ビ知力、是レナリ、執意ハ感應ニ隨ヒテ起ル者ニテ、目途ニ達セントスルノ傾向アリ、知カハ辨別、契合、及ビ把住ノ三識ヨリ成ル、而シテ此三識ハ、分明ニ計畫スルヲ得ベシ、此ノ如ク、執意ト知カトハ、辨識スベキヲ以テ、感應ニハ、反面ノ定義ヲ附スベキナリ、即チ目途ニ達セントスル作用ニモアラズ、又辨別、契合、把住ノ三識ニモアラザル心意ノ状態ハ、感應ト見做サズルヲ得ズ、

(三)感應ハ身体上ト心意上トノ両方ヨリ之ヲ見ルベシ、
 身体上ハ方ハ、腦髓、筋、覺官、及ビ滲出機等ノ如ク
 總ベテ心意ト關係アル機關ノ作用ヲ謂フナリ、
 抑此作用ニ二種ノ理法アリ、相對蔓行ノ二律、是レナリ、
 (イ)相對律ハ、感應ヲ生ズルニ當リテ、腦髓作用等ニ於テ多少ノ變更ヲ生ゼザルヲ得ザルヲ謂フ、
 (ロ)蔓行律ハ、感應、印象ノ爲メニ生ズル片ハ、流

動シテ自在ニ腦中ニ蔓行シ、諸機關共ニ腸ヲ感動スルヲ謂フ、
 (四)感應ニ四箇ノ資性アリ、第一、感應固有ノ者ヲ情緒的トシ、第二、執意ニ關スル者ヲ意志的トシ、第三、思想ニ關スル者ヲ知力的トシ、第四、預想、願望、依信等ヲ包含スル者ヲ混合的トス、
 (五)感應ハ、各其身体上ノ方ヨリ之ヲ觀ルヲ得、因覺官ニアリテハ、感覺ヲ起ス原因モ、又ハ此ニ

心理新論 卷之三 三 三

由乃テ發スル状態モ皆分明ニ覺知スベシト
 雖モ情緒ニ及ルテハ如何ナル身体上ノ原因
 ニヨリテ發スルカ覺官ニ於ケルガ如ク分明
 ニ覺知スベカラズ然リト雖モ外貌ニハ著シ
 ク發現スル者ナリ
 (六) 心意上ノ方ニハ(イ)性質アリ即チ快樂苦痛及
 (ロ)此二者ニアラザル者ナリ(ハ)強弱ト多少トノ
 度位アリ之ニ加フルニ(ニ)特性アリ
 (イ)性質ハ乃チ快樂苦痛ノ區分ニシテ總ベテ
 人事ノ關係スル所ナリ凡ソ幸福ト云ヒ禍患

ト云フハ畢竟快樂苦痛ノ有無ヲ指スニ過ギ
 ズ而シテ各自ノ幸福ハ其快樂中ヨリ其苦痛
 ヲ引キテ残りタル者トスルナリ
 然リト雖モ猶ホ別ニ快樂ニモ苦痛ニモアラ
 ザル感應アリ例ヘバ驚駭ノ如キ是レナリ固
 ヲリ驚駭ノ中ニ喜樂ヲ生ズル者モアリ懊惱
 ヲ生ズル者モアリ然レバ喜樂モ懊惱モ生ゼ
 ガル者ヲ以テ最モ多シトス是レ即チ單一ナ
 ル感動ナリ
 (ロ)度位ニハ強弱即チ銳鈍并ニ多少即チ積重

心理新説 卷之三 一 痛 鈍
二種アリ、針ノ刺戟ハ、鋭敏ナル痛ニシテ、
全身ハ疲羸ハ、積重ナル者ナリ、身体上ヨリ之
ヲ觀レバ、鋭敏ナル者ハ、僅小ノ表面ヲ甚シク
刺戟スルヨリ起リ、積重ナル者ハ、廣大ナル表
面ヲ緩ニ感激スルヨリ起ル、而シテ鋭敏ナル
快樂ト苦痛トハ、意志ヲ聳動シ、知力ニ印象
ルヲ最モ甚シ、蓋シ刑罰ニハ、鋭敏ナル痛ミヲ
生ゼシムルヲ善シトス、何ントナレバ、鋭敏ナ
ル痛ミハ、健康ヲ傷フヲ甚シカラズト雖モ、罪
人ハ却テ之ヲ懼ルレバナリ、

(六)特性ノ的例ヲ知ラント欲セバ、覺官ノ條ヲ
見ヨ、

感應ハ、執意性

(七)意志ハ、感應ニヨリテ發動スル者ニテ、快樂ア
レバ、之ヲ求メントシ、苦痛アレバ、之ヲ避ケント
スルハ、即チ之レガ爲メナリ、快樂ニモ苦痛ニモ
アラザル感應ハ、直接ニ意志ヲ發動スルヲナシ、
快樂ヲ求メ、苦痛ヲ避クルノ勢力ハ、快樂苦痛
ノ度位ニ隨ヒテ上下スル者ナリ、故ニ感應中
ニ執意的ノ作用アルヲ知ルベキナリ、

心理新説 卷之三 五 詞 盟 舎

感應ノ知カ性

(八)凡ソ感應ノ辨別、契合、把住ノ三識ト相關スル者ハ、之ヲ知カ性ノ感應トス、

感應ハ、忘レ易キ者ニテ、又回想シ易キ者ナリ、然レモ劣等感覺ノ苦痛ハ、記憶シ易カラズシテ、高等感覺ノ快樂苦痛ハ、共ニ記憶シ易シ、然ルニ柔和、傲慢等ノ如キ各種ノ情緒ト相關スル感應ハ、此ヨリ猶ホ一層記シ易キナリ、
感應ノ混合性

(九)感應ヲ心意中ニ把住スベキ者トシテ考察ス

ル片ハ、預想ノ何タルヲ問ハザルヲ得ズ、

現在ノ感應、即チ飢渴ノ如キハ、其強弱ノ度ニ隨ヒテ、意志ヲ喚起ス、蓋シ此現在ノ感應ノ勢カヲ有スルハ、過去ノ感應ヲ記憶スルニ由ル、故ニ現在ノ感應、如何様ニ強シト雖モ、過去ノ感應ヲ記憶スルト微弱ナル片ハ、意志ヲ喚起スルノ勢カモ亦隨ヒテ強カラズ、

(十)願望ハ、過去ノ快樂苦痛ヲ把住スルヨリ起ル、願望ハ混合性ノ者ナリ、蓋シ快樂ハ、觀念トナリテ心意中ニ出現スレモ、觀念ハ迥ニ實事ニ

及バズ、唯實事ニ及バザルガ爲メニ、苦痛ヲ生ズ、是ヲ以テ、實事ヲ得ント欲スルニ至ル、
 (十一) 依信上ニ於ケル感應ノ勢力ハ、混合性ノモノナリ、

快樂ハ、能ク依信ヲ生ズ、第一、快樂ハ初メ意志ヲ生ズ、而シテ依信ハ意志ニ從ヒテ存ス、故ニ、遊戯ヲ好ム人ハ、之ヲ爲サントスルノ意志ヲ生ジ、其事ニ就キテハ、絶エテ弊害ナキ者ト信ズ、第二、快樂ハ心意ヲ嗜好物ニ引キテ、一切此ト相及スル者ヲ忘レシム、是レ亦感應ノ然ラ

シムル所ニシテ、必ズシモ意志ノ爲メニ然ルニニアラス、凡ソ人ノ自己ノ心ニ慳合スル説ノミヲ採リテ、一切此ニ及スル説ヲ非ナリトスルハ、亦之レガ爲メナリ、
 苦痛ハ、快樂ト相反シテ、不信ノ心ヲ生ズル者ナリ、若シ極メテ猛惡ナル説話ヲ聞ク片ハ、之ヲ信ズルヲ能ハザレバ、然レバ心意之レガ爲メニ激動シ、總ベテ説話中人變故ニ注意セントス、是ヲ以テ、感應大ニ尤進シ、假令ヒ我ニ苦痛ヲ覺ユルモ、此説話ヲ信ゼントスルノ傾向

アルナリ、快樂ニモ苦痛ニモアラザル感動ハ、心意ヲ拘留シ、一事一物ニ傾注セシメテ、他人事物ヲ蔽遮シ、以テ依信ヲ生ゼシム、之ヲ要スルニ、心意ノ感應ハ、總ベテ依信上ニ勢力ヲ有スル者ニテ、真理ヲ壅蔽シ、人ノ斷定ヲシテ誤マラシムル者ナリ、

感應ノ發現

(十二) 他人ノ感應ヲ知ラント欲セバ、唯、其外面ニ發現スル徵候ニヨリテ、之ヲ推察セザルヲ得ズ、

徵候ハ、第一、表識、第二、行狀、第三、思想ノ經過、是レ

(十三) 第一、外面ノ表識ハ、感應ノ性質ト積量トノ

關鍵ナリト謂フベシ、

各種ノ感應ハ、各種ノ表識ヲ生ジ、又甚シキ感應ハ、甚シキ表識ヲ生ズルヲ以テ、表識ヲ以テ、感應ノ關鍵トスルナリ、容貌、音聲、動作等ニ表ハル、感應ノ徵候ヲ解スルニハ、先必察セザルベカラザルコトアリ、第一、外面ノ表識ハ、同一ナリト雖モ、各人感應ノ

度ハ、決シテ同一ニアラス、或ハ生來外面ニ發表スル人アリ、或ハ然ラザル人アリ、又一人ニアリテモ、諸機關ノ強健ナル度ニ隨ヒテ異ナラザルヲ得ズ、故ニ少壯ノ人ハ、老年ノ人ヨリ活潑ナリ、是レ亦意アリテ然ルニアラス、全ク自然ニ出ツル者ナリ、是ヲ以テ、感應ノ最モ深キ人ヲ知ラント欲セバ、先ツ性癖ノ存スル所ヲ察セザルベカラズ、
十四 第二、行狀ハ、感應ノ強弱、特ニ快樂苦痛ノ強弱ヲ示ス者ナリ、

是レ原ト意志ノ理法ナリ、凡ソ快樂ヲ求ムルヲ勉ムルハ、快樂ノ度ニ因リ、苦痛ヲ避クルヲ務ムルハ、苦痛ノ度ニ因ル、之ヲ要スルニ、之ヲ求ムルハ、之ヲ好ムガ爲メナリ、之ヲ避クルハ、之ヲ惡ムガ爲メナリ、故ニ人ノ感應ヲ察スルニハ、外面ノ表識ヨリモ、寧ロ行狀ニ據ルヲ確當ナリトス、然レ氏此二者ヲ併セテ之ヲ察スルヲ最モ精密ナリトス、
此條ニ於テ格外ナルハ、意志ニ於テモ格外ナルヲナリ、即チ氣力多キ人ニアリテハ、作用

ノ強弱ハ、感應ノ強弱ト平行セズ、故ニ單一ノ
ノ自發生ハ、感應ト相關セザル者ト知ルベシ、
(十五)第三、思想ノ經過ハ、感應ノ印象ニ由ル、而シ
テ又感應ノ種類ト度位トヲ表明スル者ナリ、
心意ハ、感應ノ爲メニ牽カレ、唯感應ノ存スル
所ニノミ傾注シ、其他ノ所ニハ及バズ、故ニ嗜
欲ノ存スル所ヲ知ラント欲セバ、思想ノ傾注
スル所ヲ察スルニ若クハナシ、又苦痛ノ存ス
ル所ヲ思ハザラント欲シテ、思ハザルコト能ハ
ザルハ、苦痛ノ感應甚シクシテ、意志ノ勢力ヲ

壓シ、知力ヲシテ此一方ニ傾注セシムルガ為
メナリ、
此傾向ヲ防グ者ハ、天賦又ハ習成ノ知力ナリ、
知力ハ、能ク心意ノ一偏ニ傾注スルヲ拒グノ
勢力ヲ有ス、故ニ知力多キ人ハ、甚シキ感應ヲ
有スト雖モ、知力少キ人ノ如ク、之レガ為メニ
昏蔽セラレ、コトナシ、蓋シ此ノ如キ時ニアリ
テ、情緒ヲ抑制スルハ、多少克己ノ力ニ由ル者
ナリ、

第二、情緒及ビ其彙類、

心現新説 卷之三 同 聖 録
(二)情緒ハ、感覺ノ如ク、初發ノ感應ニアラスシテ、
派生即チ複雑ノ感應ナリ、

感覺ハ、初發即チ本來ノ感性ニ過ギズ、然レ氏
種々ノ結合ヲ成ス片ハ、亦一種ノ感應ヲ生ジ、
以テ其由リテ來ル所ヲ認メ難カラシム、

(三)情緒ノ彙類ハ、論法ノ分釋法ニ從ヒテ之ヲ爲
ス可能ハズ、然レ氏此ニ一箇ノ方法アリ、是レ他
ナシ、單一ナル者ヨリ、錯雜ナル者ニ至ル可、是レ
ナリ、

(三)情緒ノ彙類左ノ如シ、
一、
二、
三、

第一、如何ナル感應ト雖モ、相對律ニ從ハザル者
ハナシ、然レ氏其中ニ感應ノ強弱ニヨリテ、其狀
又異ニスル情緒アリ、即チ驚奇、驚駭、及ビ愕眙、是
レ大なり、
此外苦痛ノ範圍ヨリ脱出シタル快樂ノ感應ア
ル、是レ亦相對律ニ從フ者ナリ、即チ抑制ニ對ス
ル自由、及ビ賤微ノ反對ナル權勢、是レナリ、
第二、恐怖ノ人情ハ、以下ノ情緒ニ先チテ論定スル
ヲ要ス、
第三、柔和ノ人情ハ、甚ダ著シキ情緒ニシテ、快樂ノ

根源トシテハ、至要ナル者ナリ、蓋シ欽仰、崇敬、及
ビ尊重ノ情モ、亦此種ニ屬スルナリ、

第四、他人ヲシテ己レヲ欽仰セシムベキ性質ノ
自己ニ存セリト覺知スルハ、快キ情緒ヲ生ズ、
之ヲ自推、自頌、自重ト謂フ、皆柔和ノ情ヨリ派生
スル者ナリ、

他人ノ我ヲ欽仰シ、又ハ尊重スルヨリシテ、猶ホ
又此種ノ情ト相類スル所ノ情緒ヲ生ズ、即チ褒
揚、讚美、善聞、榮光等ノ如キ、是レナリ、
第五、優等ノ權勢ヲ有スルハ、心發揚シテ、快情

ヲ生ズルヲ、極メテ多シ、是レ原ト我ト彼トヲ比
較スルヨリ起ルノ情ナリ、蓋シ權勢ノ反對ヲ賤
微トス、

第六、忿怒、即チ憤恚ノ情ハ、自己ニ快クシテ人ニ
不仁ナル情ナリ、
右第一ヨリ第六ニ至ルマデハ、單一ナル情緒ノ
最モ著シキ者ナリ、此等ハ固ヨリ多少複雑ノ性
ヲ有スト雖モ、各、其特異ノ性ヲ有スルヲ以テ、人
トシテ之ヲ分識セザル者ハアラス、

第七、意志ノ作用中ニ、一種ノ情緒アリ、是レ作事

ノ苦樂ト目途ニ達スルノ喜悅ニ拘ハラズ、又事業ノ徒勞ニ屬スルノ恐レニモ拘ハラズ、經過ノ間ニ起ル奇異ナル快情ナリ、若シ之ヲ謀興ト名ケバ、稍此情ノ何タルヲ知ルベキナリ、第八知力ノ作用モ、情緒ト相伴フ者ナリ、殊ニ類似律ニ由リテ、異類アルヲ認ムル片ハ、快キ驚駭ヲ生ズ、而シテ又相反スルコアル片ハ、苦痛ノ原因トナルナリ、

第九以上ノ種類ハ、各一情トスベキ者ナリ、次ギノ情緒、即チ美術ノ情モ、亦通常哲學上ニ於テハ、

一情ト認ムル者ナリ、然レ凡能ク之ヲ察スレバ、此情緒ハ、種々ノ感覺并ニ感應ヲ含有スル者ナリ、第十、徳性ハ、美術ノ情ト同ジク、大抵一情ニシテ分ツベカラサル者トスルコトナリ、然レ凡此事ニ就キテハ、異説極メテ多キナリ、美術ノ論ハ、頗ル哲學上ニ涉リ、徳性ノ論ハ、倫理學ニ屬スルヲ以テ、此篇ニハ之ヲ略ス、
第三、相對ノ情、即チ驚奇、驚駭、自由等、
二、驚奇ノ情ヲ起ス外物ハ、世人ノ熟知スル所ナ

リ、
身体上ノ變化ハ、神經其作用ノ位置ヲ換ヘ、筋并
ニ覺官ニ其影響ヲ及ボスヲナルベシ、
神經其作用ノ位置ヲ換フルノ快キハ、原ト激
動ノ快キニ由ルヲナリ、
三此情緒ノ性質ハ、快樂ナリ、度位ハ激動ノ鋭敏
ナルト積重ナルトニ隨ヒテ種々アリ、特性ハ、
レ無シ、
快樂ハ、總ベテ感覺ノ本性ナレバ、繼續又ハ充
足ニヨリテ不覺トナルモノナリ、

三驚奇ト相對スル苦痛ヲ單趣、疲憊、困倦トス、
是レ皆身體ノ一部分ノミ甚シク勞シテ、其他
ノ部分ハ、激動スルヲナキヨリ生スル者ニテ、
其情ノ如何ハ、世人ノ熟知スル所ナリ、蓋シ刑
罰ヲ行フニ、是等苦痛ノ最モ甚シキ者ヲ用フ
ルヲアリ、
單趣ハ、主觀ニ凝リ、自覺ニ過クル時ニ、最モ苦
痛多シトス、故ニ客觀ノ心意ヲ引ク者無クシ
テ、長ク繼續スル片ハ、心意ハ殆ント困倦ニ勝
ヘザラントスルニ至ル、殊ニ暗處ニ潛居スル

カ、又ハ職務無ク閉居スル片ハ心意ノ困倦勝
ヘ難キナリ、

驚奇ノ種類ノ中ニハ、第一、幼年ノ時ニ起ル單
一ナル感覺アリ、是等感覺ノ本来快キ者ハ、最
初經驗ノ時ニ於テモ、已ニ著シ、然レモ初發ノ
感覺ハ、忽チ結合スル者ニテ、驚奇ノ情ハ、其新
奇ノ結合ノ時ニ起ル、故ニ歳ヲ經ルニ隨ヒテ、
次第ニ減少スト雖モ、亦久シク存スル者ナリ、
即チ新奇ノ風景、新奇ノ外物、新奇ノ人物、新奇
ノ位置等ハ、皆行旅ノ情ヲ引クベク、新奇ノ事

變ハ、一身上ニ於テモ、歷史上ニ於テモ、之レア
ルベク、技藝上ノ發明、學術上ノ創見等モ、亦新
奇ノ喜ビヲ生ズベシ、美術ノ如キ、其目途原ト
快樂ニアルヲ以テ、大ニ新奇ナルヲ要ス、又流
俗ノ如キハ、最モ新奇ヲ要スル者ニテ、新奇ノ
甚シキ度ニ隨ヒテ、快樂モ亦甚シキナリ、
四、驚駭ハ、預期スル所ト相反スルコトアリヨリ起
ル、
驚駭ハ、矛盾ノ爲ニニ激發スル所ニシテ、或ハ
快樂アルコトアリ、或ハ苦痛アルコトアリ、或ハ快

樂モ苦痛モ共ニコレ無キコトアリ、唯、矛盾ナル片ハ、苦痛ヲ生ズル雖モ、神經新鮮ナル片、刺戟ヲ加フルハ、却テ快樂ヲ覺ユルコトアリ、然レ、快樂モ苦痛モ覺ユザルコト、最モ多シトス、又驚駭ハ、其境遇ニ隨ヒテ、幾分カ其性質ヲ異ニス、若シ預期スル所ヨリモ善キ事ノ為メニ驚駭スル片ハ、快樂ヲ覺ユ之ニ及スル片ハ、苦痛ヲ覺ユルナリ、蓋シ其目録ハ、(五)愕眙ハ、預期スル所ヨリモ高ク見ユルカ、又ハ卑ク見ユル時ノ情ナリ、時アリテハ、宏壯ノ情ト

同ジク心意ヲ發揚スルコトアリ、時アリテハ之レガ為メニ委頓、又ハ輕侮ニ傾向スルコトアリ、愕眙ハ、快樂ヲ生ズルハ、蓋シ尋常慣習ヨリ迥ニ超越スル所アル由ル者ニテ、原ト純然タル相對ノ情ニ過ギズ、若シ愕眙ノ情ニ就キ、其輕侮ニ傾向スル所ヲ除ク片ハ、其餘ノ一部ハ、驚駭ノ情ニ本キ、其他ハ、宏壯ノ情ニ本クナリ、(六)抑制ト自由トハ、共ニ相對ノ情ニ屬スト雖、抗拒ノ情ヲモ、含有スル者ナリ、

六 抑制ハ、抗拒ノ情ヲ含有シ、此ニ由リテ、委頓ノ
態ヲ來タス、而シテ此委頓タルヤ、種々ノ度位
ヲ有スト雖モ、要スルニ、皆苦痛ヲ生ズル者ナ
リ、若シ夫レ活潑ナル自發生ハ、禁固ノ爲メニ
壓抑セラレ、情緒ノ流動ハ、刑罰ノ恐アルガ爲
メニ制止セラレ、隨意ノ行動モ意志モ、共ニ拘
束セララル、片ハ、腹肚之レガ爲メニ抗拒ノ微
ヲ表ハシ、隨ヒテ又苦難ヲ生ズ、殊ニ抗拒ノ甚
シキ片ハ、堪スベカラザル苦痛ヲ生ズルニ至
同ルナリ、意ハ發熱スルハ、力アリテ、

七 自由ハ、抑制ニ對スルノ情ニシテ、束縛ヲ脱シ、
抗拒ヲ止メタル片ニ暴發スル喜悅ノ情ナリ、
抑制ノ爲メニ、猶ホ苦痛ヲ覺ユル片ニ放免セ
ラルレバ、輒チ自由ノ情ヲ生ズ、然レモ若シ久
シク檢束セラレ、抑制ヲ受クルノ慣習トナリ、
遂ニ之レガ爲メニ苦痛ヲ覺エザル片ニ至リ
テ放免セララル、モ、絶エテ喜悅ノ情ヲ暴發ス
ルノ無シ、此事ハ奴隸トナリテ衰老シタル者、
并ニ久シク獄中ニアリシ者ニ於テ證スベシ、
自由ノ情ハ、稍、發揚又ハ酣醉ノ資性ヲ有スル

者ニテ、放免ノ迅速ナルト自在ナルトニ隨ヒ
テ甚シク、檢束ノ苦痛如何ニ隨ヒテ大ナリ、此
情ハ總ベテ他ノ相對ノ情ト同ジク、再ビ抑制
ヲ爲スニ由リテ生ゼシムベシ、故ニ既ニ束縛
セララル、人ニアラザルヨリハ、此情ヲ以テ増
加スル所ノ幸福トハ、見做サバルナリ、

第四、恐怖ノ情、

(一) 恐怖ノ情ハ、凶惡ノ將ニ來ラントスルヲ領會
スルヨリ起ル者ニテ、忽チ苦痛ヲ生ジ、活潑ナル
氣力ヲ挫折シ、心意ヲシテ一點ニ凝聚セシムル

ノ資性ヲ有ス、

第一、恐怖ヲ起ス原因ハ、將ニ來ラントスル險惡
ヲ領會スルニアリ、

現在ノ苦痛アリテ、別ニ預料スル所ノ苦痛無
キ片ハ、恐怖ノ情ヲ生ズルヲナシ、故ニ若シ痛
ク打撲セララル、トアラシニ、其事既ニ終ハレ
バ、猶ホ疼痛ヲ覺ユルモ、恐怖ノ情ハ、絶エテア
ルヲナシ、若シ又現在ノ苦痛、將ニ來ラントス
ル苦痛ノ發端ニ過ギザル片ハ、最モ恐怖ノ情
ヲ生ジ易シ、

八理新説 卷之三
時ニ因リテハ、領會スル所ノ凶惡、或ハ確定セ
ルアリ、例ベバ、疼痛ヲ免レザル治療ヲ受クル
時ノ如キ、是レナリ、蓋シ苦痛ノ觀念ヲ有スル
片ハ、固ヨリ委頓ノ状態ヲ免レズ、然レ氏苦痛
ノ現ニ我ニ近ツクヲ覺知スル片ハ、其苦難
ニ又新奇ノ資性ヲ附ス、是レ他無シ、斯時ニ當
リテ、苦痛ハ實ニ恐怖スベシト雖モ、然レ氏勇
ヲ鼓シテ之ニ耐ヘント欲ス、即チ之ニ耐フル
ノ要用ナルヲ了知スル片ハ、敢ヘテ之ヲ爲ス
ニ至ルナリ、

又凶惡ノ起ルハ、不定ナレ氏、或ハ起ルナラン
ト推知スベキナリ、例ヘバ、海中颶風ニ遇フ
カ、又ハ劇症ノ疾ヲ病ムカ、又ハ匹敵ト相闘フ
時ノ如キ、皆不測ノ禍患ヲ預料スベキナリ、
新奇ニ不定ノ凶惡ヲ來タス片ハ、殊ニ恐怖ノ
情ヲ起シ易シ、屢起ル危難ノ如キハ、慣習トナ
リテ恐怖スルコト無ケレ氏、未ダ曾テ知ラザル
凶惡ノ將ニ來ラントスルニ、當リテハ、十分ニ
恐怖ノ情ヲ生ズ、即チ傳漸病ニ因リテ起ル恐
怖、未ダ曾テ經驗セザル疾病ヲ領會スルニ因

リテ起ル恐怖、并ニ新募兵ノ砲火ノ下ニアル
時ノ感應ノ如キ、是レナリ、
三、恐怖ハ、身体上ニ於テハ、神経力ノ損失及ビ運
輸ヲ表現ス、蓋シ有機作用ノ勢力、一時ニ暴脱シ
テ、知力上ト身体ノ行動上トニ集マルニ由ルナ
リ、
恐怖スル片ノ状貌ハ、弛暢ト強張トノ二様ヲ
呈露ス、
諸筋弛暢スルガ爲メ、顎骨垂シ、兩唇戦ク、而シ
テ其他ノ諸機關モ、亦之レガ爲メニ變動ヲ生

ズ、
次ギニ有機作用モ弛暢シ、消化ハ緩ク、唾液ハ
涸レ、胃液ハ盡キ、諸腸ハ變動シ、呼吸ハ微弱ニ
大リ、心臓并ニ血液ノ循環ハ擾亂シ、顔色ハ或
ハ赤ク、或ハ土ノ如ク、皮膚モ變色ヲ呈シ、冷汗
出テ、異臭ヲ放ツ、而シテ物ノ層ニ爬行スル
三、ガ如キ感覺ヲ生ジテ、毛髮竦立ス、之ニ加フル
ニ、腎臟モ感化シ、乳汁モ毒氣ヲ生ス、
強張ノ増加スルガ爲メニ、目ハ睨状ヲ為シ、頭
蓋皮ハ上ガリ、鼻孔ハ廣ガリ、口ハ叫聲ヲ發シ、

身ハ騷擾ス、蓋シ其目ノ睨ムハ、恐ルベキモノ
ニ注意スルニ由ル、而シテ心意モ目ト同一ノ
方向ニ傾注スル者ナリ、
(三)心意上ヨリ之ヲ觀レバ、恐怖ハ、積重ナル苦痛
ノ一種ナリ、
恐怖ノ甚シキガ爲メニ委頓スル片ハ、暫時ハ
殆ンド耐ヘ難シ、實ニ恐怖ハ、人間苦難ノ最モ
大ナル者ニテ、其特性ハ甚シキ委頓ト甚シキ
激動ト共發スルコト是レナリ、
意志ニ就キテ之ヲ言ヘバ、心意上ノ恐怖ノ苦

痛ハ、總ベテ他ノ恐怖ト同ジク、救濟ノ道ヲ求
メントス、昔ヨリ凡ソ苦痛ハ、活動ヲ消滅スル
ノ傾向アリト云フ説アルコトナルガ、是レ實ニ
然ルコトニテ、恐怖ノ苦痛ヲ生ズル片ニハ、最モ
著シ、故ニ恐怖ハ、制止ノ具トナスベシ、殊ニ熱
心ナル反對者ヲ從フルニハ、恐怖セシムルニ
若クハナシ、恐怖ハ能ク傲慢ナル心ヲ謙遜ナ
ラシムル者ナリ、然レモ若シ恐怖ニ因リテ他
人ヲシテ非常ニ勤勉セシメントスル片ハ、反
リテ効ヲ奏セズ、奴隸ノ勞動ノ効無キヲ以テ

推知スベシ、
知カニ就キテ之ヲ言ヘバ、此情ノ資性ハ、甚々
著シ、蓋シ氣カヲ知覺上ニ用フル片ハ、非常ニ
外物ニ感ジ易キ者ニテ、若シ妖怪出ツト云ヒ
傳ヘタル家ニ入ル片ハ、如何ナル音響ト雖モ、
之ヲ聞取セント欲シ、風ノ吹き來ルコアレバ、
乃チ恐ルベキ妖怪ノ來リ近ヅクナラント思
惟ス、

(四)恐怖ノ種類ハ左ノ如シ、
第一、劣等動物ノ恐怖、

劣等動物ノ恐怖ノ情ハ、分明ニ認識シ得ベキ
者ニテ、若シ纔ニ之ヲ恐怖セシムレバ、大ニ激
動セシムベク、又能ク柔馴ナラシムベシ、

第二、兒童ノ恐怖、

幼稚ノ心意ハ、啻ニ苦痛ノミニ限ラズ、如何ナ
ル事ニモ感ジ易シ、若シ又接近スル所ノ人物、
及ビ物品ヲ熟知スルニ及ビテ、異人又ハ奇物
ヲ見ル片ハ、恐怖ノ情ヲ生ズ、

第三、奴隸ノ恐怖、

奴隸ノ恐怖ハ、其主無限ノ權威ヲ有シ、極メテ

變心多ク、極メテ残忍ナルヨリ起ル、即チ嚴酷ナル責罰ヲ受ケンカト疑ヒテ、恐怖ヲ生ズルナリ、

第四、禍患ヲ預知スル片ノ恐怖、通常ノ恐怖ハ、多少禍患ヲ預知スルヨリ生ズル者ナリ、實ニ人タル者ハ、能ク此等ノ恐怖ヲ免ル、一能ハズ、

第五、謬信ノ恐怖、天地間ニハ恐怖スベキ一少シトセズ、自然ノ勢力ハ、廣大ニシテ抗スベカラズ、往古ハ邈ト

シテ逐フベカラズ、人類ノ始メハ、究ムベカラズ、是ヲ以テ、種々ノ謬信ヲ生ジテ、之ヲ恐怖スルニ至ル、是レ原ト恐怖ハ、無知ト相伴リニ由ルナリ、

第六、自己ノ能力ヲ依信ゼザル片ノ恐怖、未ダ曾テ經驗セザル地位ニ於テ、不十分ナル能力ヲ用ヒントスル片ハ、恐怖ノ情ヲ生ジ易シ、或ハ始メテ他人ニ逢ヒ、或ハ多人數ノ前ニテ演説スル片、赤面スル片、皆之レガ爲メナリ、第七、死亡ノ恐怖、

死亡ノ恐怖ニハ、二種ノ原因アリ、其一ハ生命ニ屬スル百般ノ快樂、希望等ノ絶滅ヲ恐怖スルヲナリ、其二ハ得テ知ルベカラザル所ナルヲ恐ルルナリ、イハレバ、
(五)恐怖ノ種類、此ノ如ク多シト雖モ、恐怖ニ及スル勇氣ノ根源モ、亦之レアリ、
勇氣ノ根源ヲ舉ゲンニ、第一、体格壯強ナル片ハ、有機作用ニ必用ナル血液ノ散去ヲ防クベシ、第二、活潑ナル性氣ハ、恐怖ニ抗スベシ、第三、希望多キ性氣モ、亦同一ナリ、第四、意志ノ勢力

ハ沈着セントスル所ヨリ起ル者ニテ、恐怖ノ爲メニ制セラレザラントス、第五、知カモ亦恐怖ノ情ニ及ス、第六、恐怖ハ多ク不識ヨリ起ル者ナルヲ以テ、智識ハ之レト相反スルノ効ナカルベカラズ、實ニ近世謬信上ニ勝利ヲ得タルハ、萬物ノ理ヲ知り得タルニ由ルナリ、
第五、柔和ノ情、
(三)柔和ハ快キ情緒ナリ、中和ハ憂鬱ナリ、
柔和ノ情ヲ起ス外物、即チ原因ハ、大抵人類、及ビ其他ノ有情物トス、

猶ホ委シク柔和ノ情ヲ起ス二三ノ原因ヲ左ニ説カン、

(一) 第一、積重ナル快樂ノ中ニハ、遲緩ナル行動、運動後ノ休息充足、快キ温暖間雅ナル音響、中和ナル日光等アリ、此等ハ皆柔和ノ情ヲ誘起スル者ナリ、

(二) 次ニ快樂ノ極メテ甚シキ者ハ、柔和ノ情ヲシテ暴發セシムルニ至ル、此事ハ多ク宴會ノ時ナドニ於テコレアリ、

(三) 第三、苦痛モ亦柔和ノ情ヲ起ス、是レ稍反對ノ

説ニ似タリト雖モ、其實ハ然ラズ、蓋シ苦痛アル時ハ、快樂ヲ必須スルヲ以テ然ルナリ、

(二) 身体上ニ於テハ、柔和ノ情ハ、第一、觸覺、第二、製淚機、第三、喉頭ト相關ス、

(一) 第一、柔軟ナル觸覺ハ、快キ感覺ニシテ、柔和ノ情ヲ誘起スル者ナリ、

(二) 第二、製淚機ハ、淚線淚囊トモ、柔和ノ情ニ感添セラル、者ニテ、融和ナル感覺アル片ハ、流涙モ適宜ナレト、大ニ感激スル片ハ、淚液流溢ス、是レ蓋シ苦痛若クハ甚シキ喜悅ノ爲メニ腦中

ニ充血ヲ起スニ由ルナリ、
第三、喉頭モ亦柔和ノ情ニ感染ス、心痛甚シキ
片ハ、喉頭ノ筋攣急シテ、食物ヲ嚥下シ難カフ
シム、心痛甚シカラザル片ハ、唯、柔和ノ感覺ヲ
起スノミナリ、

(三) 心意上ニ於テハ、柔和ノ情ノ性質ハ快樂ナリ、
度位ハ積重ニシテ銳敏ナラズ、其著キ特性ハ安
静及ビ休息ト關係ヲ有スルヲ是レナリ、
柔和ノ感覺ハ、廣大ナル表面ニ起ル者ニテ、久
シク耐フベキ快情ヲ生ズ、實ニ人生ニアリテ

ハ至要ナル者ナリ、
意志ニ就キテ之ヲ言ヘバ、柔和ノ情ハ、他ノ快
情ト同ジク、其度位ニ隨ヒテ充足セントスル
ノ傾向アリ、
知カニ就キテ之ヲ言ヘバ、柔和ノ情ハ、容易ニ
保持スベキヲ以テ、久シク記憶シ、又能ク回想
スベキ者ナリ、

(四) 柔和ノ情ノ種類、
母子ノ間ニ生ズル柔和ノ情ヲ第一トス、蓋シ
幼稚ナル者ハ、此ノ如キ情ヲ起サシムベキ性

質ヲ有ス、即チ其皮膚ハ柔軟ニシテ清淨ナリ、其眼目ハ清潔ナリ、其体格ハ圓形ナリ、又其身ハ短小ニシテ微弱ナリ、此ノ如クナルヲ以テ他人ヲシテ柔和ノ情ヲ起サシム、母ヨリ之ヲ觀レバ、子ハ自己ノ身ヨリ分生シタル者ナルヲ以テ、之ヲ鍾愛スルヲ一層深キ者ナリ、劣等動物モ亦柔和ノ情ヲ誘起ス、是レ其人ト相争フノ力ヲ有セズ、唯其愛スベキ状態ヲ呈シテ偏ニ柔馴ナルガ故ナリ、又無情物ノ爲メニ柔和ノ情ヲ生ズルコトアリ、然レ氏是レハ原

四ト空想ヨリ起ルモノナリ、味ハ甜ク自愛ノ土、宗教上ノ情操ハ、柔和ノ情ト恐怖及ビ宏壯ノ情トヨリ成ル者ニテ、政府ニ對シテ起ル情操ト相類ス、但、神人ノ區別アルノミ、第六、主我ノ情ハ、二種ノ感應ヲ包含ス、其一ハ自頌、(二)主我ノ情ハ、二種ノ感應ヲ包含ス、其一ハ自頌、自推、自重、傲慢等ニシテ、其二ハ承讚心、虚誇、願譽心、又ハ榮光心等、是レナリ、
三他人ニ存スル性質ニ我ガ欽仰、崇敬、親愛、尊重

等ノ情ヲ誘起スル者アリ、若シ此ノ如キ性質ノ
我ニ存スルヲ覺知スルハ、自頌、自重等ノ情
ヲ生ズ、
自欽仰ハ、宏壯柔和ノ二情ヲ合スル者ニテ、時ニ
ヨリテハ甚必快キ情緒ナリ、然ルニ今此ニハ
他人ニ欽仰セラレベキ性質ノ我ニ存スル時
ノ如何ニ就キテ論ゼントス、
三、身体上ニ於テハ、主我ノ情ハ、柔和ノ情ト同シ
ク、清和恬熙ノ狀貌ヲ生ズ、
四、心意上ニ於テハ、自推ハ、柔和ノ情ヲ自己ノ上

ニ及ボス、
即チ柔和ノ情ヲモ誘起スル欽仰ノ快樂ナリ、
第一、欽仰ノ情ノ近ク親愛スル所ノ人ニ及ブ
トアリ、然ルニ若シ親ノ身ヨリシテ其子ノ勲
功、徳望、及ヒ美態ヲ目撃スルガ如キヲアルハ
然、分明ニ二重ノ快情ヲ生ズ、是レ他ナシ、欽仰
ハ、情欵ヲ鼓動シ、鼓動セラレタル情欵ハ、欽仰
ノ情ヲ增益スルガ爲メナリ、實ニ欽仰スベキ
性質ノ我ト關係アル人ニ存スルヲ見ルト、我
ト全ク關係セザル人ニ存スルヲ見ルトハ、大

ニ同ジカラザル者ナリ、猶ホ一歩ヲ進メテ之ヲ察スルニ、如何ナル人ト雖モ、自己ノ上ニ柔和ノ情ヲ及ボシ、自己ヲ以テ情款ヲ施スベキモノト見做サズル者ハ無シ、即ニ二重ハ外計ノ主スルモノト見做サズル者ハ柔和ノ情ハ、原ト他人ノ身ニ就キテ發生スル者ナリ、然レモ又無生物ニマデ及ブコアル所ハ、自己ノ上ニ此情ヲ生ズルハ、固ヨリ怪ムニ足ラザルコトナリ、若シ又快樂ヲ受ケント欲シ、或ハ目途ニ達セント欲スルノ間、自ラ其身ヲ

照顧スレバ、其身即チ其快樂ヲ受クベキ者、目途ニ達スベキ者タルヲ覺知スルヲ以テ、自己ノ上ニ柔和ノ情ヲ生ジ、遂ニハ其情款ホナルヲ覺エザルナリ、或ハ又專ラ他人ノ上ニ注意シテ、自己ヲ照顧セザルコトアリ、此ノ如クナルキハ、自推ノ情ハ絶滅シ、他人ノ卓絶ナル所ヲ見テ、コレガ爲メニ温和ニシテ愉快ナル情ヲ生ズ、然レモ此ノ如ク自己ヲ忘却スルコトハ、殆ンド稀ナリ、何ントナレバ、自覺ノ傾向ハ、如何様ニ他人ノ上ニ

注意スルモ、全ク歸空スルコトアラザレバナリ、然レ氏各自ノ有スル所ノ感情ハ、大ニ其學位ヲ異ニスル者ト知ルベキナリ、
(五)此類ノ感應ニ屬スル各種ノ形状ハ、各其通稱ヲ有スル者ナリ、
自推ハ、自己ノ價直、才能等ヲ料度スルニ由リテ快樂ヲ生ズルヲ謂フ、又言語ニ因リ他人ヲシテ己レト同情ナラシム、且ツ己レニ注意セシムルヲモ謂フナリ、
自重及ビ自尊ハ、自己ヲ以テ他人ト比較シ、自

己ノ方ヲ優等ナリトスルコトニテ、其狀態ハ自ラ信任スルヨリ發スル者ナリ、殊ニ氣力多キカ、又ハ活潑ナルカ、又ハ情緒多キ人ニアリテハ、深ク自ラ信任シテ他人ノ説ヲ承諾セザルコトアリ、此ノ如キハ、原ト自足ノ情ニ出ツル者ニテ、尊敬スベカラザルニアラズト雖モ、親愛スベキ所ニハアラズ、
自敬及ビ傲慢ハ、行狀上ニ動機ヲ生ズル時ノ感應ナリ、即チ自己ニ高キ價直ヲ附シ、不適當ノ行狀ニ因リテ、其價直ヲ落サバランコトヲ務

ムルノ情ナリ、蓋シ夫ノ正直ナル人ノ其心ノ
 善良ナルヲ示サシガ爲メ、既ニ廉直ナル上
 ニ、猶ホ又廉直ナラントスルガ如キハ、此情ア
 ルニ因ルナリ、
 競争、及び優等ノ情ハ、自己ト他人トヲ比較ス
 ルキニ起ル者ニテ、若シ自己ノ他人ニ勝ル
 ヲ分明ニ覺知スルキハ、優等ノ情ヲ生ズ、而シ
 テ優等ナラント欲スル心ノ衝動ヲ競争ト云
 ス、計計スルハ、同ノ競争ニテ、人ノ同計ニ因リテ、
 猜忌ハ、劣等ノ情ニシテ、對敵ニ不仁ナル者ナ

以、計ハ、計用ハ、對敵ニ不仁ナル者ナ
 (六) 以上述ブル所ノ快樂ト相反スル苦痛ノ情ア
 リ、
 此類ノ情中ニテ最モ賞美スベキ者ハ、謙遜ト
 抑損トナリ、是レ皆他人ニ地位ヲ與ヘントス
 ル寛仁ノ情ヨリ起ル者ナリ、
 自己ノ價直ナキヲ覺知スルキハ、苦痛ノ情
 ヲ生ズ、之ヲ卑屈又ハ自屈ト謂フ、然レ他人ノ
 此情ヲ有スルハ稀ニシテ、主我ノ情、常ニ強キ
 者ナリ、若シ又自己ノ價直ナキヲ曉ルキハ、其

心痛ヲ生ジ、委頓ヲ來タス、反對ノ情ヲ有スル片ニ喜悅スルノ度ト同ジ、自責ハ、自己ノ風評宜シカラザル片ニ起ルノ情ナリ、承讚心

(七)他人ニ讚美セラレ、若クハ欽仰セラレ、若クハ褒揚セララル、ヲ欲スルノ感應ハ、自頌心ノ甚シキヨリ生ズル者ニテ、他人ノ同情ニ因リテ増進ス、同情ノ作用ハ、後條ニ於テ詳ニ論ズルコトアル

ベシ、此ニハ唯、自己ノ情操及ビ意見ハ、他人ノ同情ニ因リテ益深クナルコトヲ領會スレバ可ナリ、

(八)種ノ情操ヲ生ズル片、他人ノ我ト同情ヲ有スルヲ知ル片ハ、其情緒ハ益深クナリ、益之ヲ保持セントス、此ノ如クスル片ハ、快樂ヲ増加スルヲ得ルナリ、今此ニ他人ノ技藝ヲ欽仰セシニ、若シ我ト同情ヲ有スル者アル片ハ、益之ヲ欽仰セントス、自己ノ意見モ、亦他人ノ同情ニ因リテ、益確定

スル者ニテ、若シ大ニ尊崇スルノ人ニシテ我
ト同一ノ意見ヲ有スルコトアラバ、自己ノ意見
ハ其勢カヲ倍蕪スルニ至ルナリ、
右ニ舉クル所ノ事項ハ、他人ニ稱揚セラル、
片ニモ存ス、即チ自推ノ情ハ、他人ノ我ト同情
ヲ有スル片ニ、益深クナル者ナリ、
(八)他人ニ欽仰セララル、片ノ感應ノ種類ハ、左ノ
如シ、

唯、讚美ヲ兼クルノミニテハ、甚シキ快樂ヲ生
ゼズ、然レモ欽仰セラレ褒揚セララル、ニ至リ

テハ快樂ヲ生ズルコト甚シク、且ツ自推ノ情ヲ
鼓動スルコト大ナリ、諂諛及ビ佞媚ハ、稱揚ノ過
度ナル者ニテ、稍、虚偽ニ近シ、榮光ハ群衆ノ共
ニ推頌スル片ニ生ズ、即チ褒揚ノ高大莊重ナ
ル者ナリ、
名譽ハ芳聲ノ遠ク異邦ニ轟キ、長久後世ヲ感
ズルヲ謂フ、
(九) 拙難ハ、我が苦痛ノ情ヲ生ズル他人ノ意見ナ
リ、
拙難、誚讓、讒謗、詆訾、斥罵等ハ、皆他人ノ我ト相

反スル意見ヲ有スル片ニ、我ニ向ヒテ爲ス所ナリ、若シ自ラ其不名譽ヲ受クベキ理由アルコトヲ覺知スル片ハ、唯、其委頓ノ狀ヲ益スルニ、然レモ若シ我ニ之ヲ受クベキ理由ナシト覺知スル片ハ、之レガ爲メニ苦痛ヲ生ズルコト最モ甚シ、

後悔ハ、自己ノ貶責ニ加フルニ他人ノ貶責ヲ以テスル片ニ生ズ、大抵自己ノ貶責ハ、感ズルコト無ケレモ、他人ノ貶責ニハ、大ニ感ズル者ナリ、耻辱ハ、既ニ顯ハレタル拙難ヲ受クルカ、又

ハ猶ホ未ダ顯ハレザル拙難ヲ受クル片ニ生ズルナリ、

第七、權勢ノ情、

(一) 權勢ノ情ハ、行爲ノ快樂、及ビ目途ニ達スルノ快樂トハ、格別ノモノナリ、但、我ト彼トヲ比較シテ、我勢力ノ彼ヨリ優等ナルコトヲ覺知スル片ニ生ズ、

權勢ノ快樂ハ、二人カ一人ノ二業カヲ比較シテ、其一ノ優等ナル片ニ生ズル者ナリ、優等ナル權勢ノ情ハ、身体及ビ心意ノ發達ス

ル片ニ生ズルコトアリ、故ニ少年ノ將ニ長大ナ
ラントスル者ハ、其膂力ノ増加スルヲ覺ユル
毎ニ快樂ヲ生ズ、又學識上ニ進歩シ、困難上ニ
勝利ヲ得ル片モ、亦快樂ヲ生ズ、然レハ老年ノ
將ニ萎衰セントスル者ハ、全ク之ト反對ノ進
路ヲ取ルナリ、
又凡ソ物ヲ生ズベキ能力ノ我ニ存スル片ニ
權勢ノ情ヲ生ズルコトアリ、即チ善良ナル機器、
又ハ有用ノ材料ヲ有スルガ如キ、是レナリ、又
教師ハ後來望アル生徒ヲ有スル片ハ、喜悅ヲ

生シ、將校ハ練達シタル兵士ヲ有スル片、同一
ノ感應ヲ生ズ、是レ皆權勢ノ情ナリ、
又他人ト比較スル片ノ權勢ノ情アリ、鬪爭若
クハ競争スル片、勝利ヲ得タル者ハ、其權勢ノ
優等ナルヲ喜ビ、自國ノ祖先ニ豪傑ノ士多キモ、亦
優等ノ情ヲ生ズ、然レハ優等ノ情ハ、進歩セズ
シテ長ク同一ノ位置ニ存スルコト能ハズ、若シ
同一ノ位置ニアル片ハ、優等ノ情ハ、自ラ消滅
ス、是レ其劣等ノ状態ヲ忘却スル度ニ隨ヒテ、
優等ノ喜悅ヲ減却スルニ由ル、是ヲ以テ終身

高位ニアリシ人ハ、劣等ノ社會ニ入ルニアラザルヨリハ、其貴顯ナルヲ覺知スルコト能ハザルナリ、
(三) 身体上ニ於テハ、權勢ノ情ハ、高大ニシテ直立シタル状態ヲ生ジ、且ツ神經力ノ忽然増進シタルガ如ク、身体上ノ氣力ヲ表ハス、而シテ間、嘻笑ヲ暴發スルコトアリ、
直立シタル状態ハ優等ナル權力ノ表識ニシテ、沈伏シタル状態ハ劣等ナルコトヲ示ス者ナリ、故ニ今現ニ勝利ヲ得タル者ヲ察スルニ、活

動力尤進シ、奮發聳動シテ、大ニ爲ス所アラントスルノ傾向アリ、
嘻笑ヲ暴發スルノ原因ハ、種々アリ、然レモ其中最モ著キ者ハ、不意ニ優等ナルコトヲ覺知スルカ、又ハ優等ナラントスル結果ヲ頓悟スルコトナリ、又身体ノ氣力、權勢ノ情ニヨリテ増進スルハ、自護律ニ合當スル者ナリ、
(三) 心意上ニ於テハ、權勢ノ情ノ性質ハ、快樂ナリ、度位ハ鋭敏ニシテ積重ナリ、特性ハ活潑ナル状態ト相關スルコトナリ、

優等ナル權勢ヲ有スルノ情ハ、發揚及ビ心醉
 ノ快樂ニ屬スル者ニテ、委頓ノ状態ヲ脱スル
 ヲヨリ起ル、即チ自由ノ情ト最モ相類スルナリ、
 何ントナレバ、二情トモ活動カノ忽然檢束ヲ
 脱スルニ由リテ發スレバナリ、
 (四) 次ニ此情ノ種類ヲ述ベシ、
 他人ヲシテ感動セシムル行狀ヲ爲シ得タル
 片ハ、自ラ其權勢ヲ有スルヲ覺知シ、喜悦ノ情
 ヲ暴發ス、即チ他人ヲシテ恐怖、若クハ忌嫌、若
 クハ忿怒セシムルコトアル片ハ、自己ノ權勢ト

他人ノ感狀トヲ比方シ、爲メニ喜悦ノ情ヲ生
 ジ、意氣頓ニ發揚ス、而シテ嬉笑ハ常ニ此情ニ
 伴ヒテ起ルナリ、
 廣大ナル作業ヲ支配スル片、優等ノ情ヲ生ズ
 ルコトアリ、是レ全ク各種ノ事務ヲ總理シテ、多
 人數ヲ使役スル人ニ限ルコトナリ、權力ヲ施用
 シ命令ヲ施用スルニ至リテハ、各自ノ殊ニ喜
 悦スル所ナリ、
 貨財ヲ有スル片ハ、權勢ノ情ヲ生ズ、是レ蓋シ
 貨財アレバ、多數ヲ使役スルヲ得ルガ爲メ

ナリ、
 言論ノ力、若クハ知カノ他人ニ勝ルルハ、別ニ
 官位上ノ權カヲ有セズト雖モ、權勢ノ情ヲ生
 ズ、即チ會社若クハ政黨ノ巨魁ノ如キハ、此類
 ノ情操ヲ有セザルハナシ、
 宗教上ニモ、亦權勢ノ情アリ、又學識ノ他人ニ
 過クルルキモ、自己ノ權勢ヲ覺知スルコトアリ、此
 外權勢ノ情ヲ生マル行狀少シトセズ、然レモ
 以上舉グル所ヲ以テ、太甚ナル者トスルナリ、
 (五) 賤弱ノ苦痛ハ、全ク權勢ノ快樂ニ及スル者ナ

リ、
 他人ノ意志ニ服從シ、寒微ノ狀態ヲ有シ、身ヲ
 他人ニ委任シ、輕侮詬辱ヲ受クル等ノ事ハ、皆賤
 弱ノ情ヲ來タス、
 (三) 第八、憤懣ノ情、
 (二) 憤懣ノ情、即チ忿怒ハ苦痛ヨリ起ル者ニテ、他
 人ノ上ニ苦痛ヲ生ゼシメ、此ニ由リテ快樂ヲ得
 ルコトナリ、
 忿怒ハ、他人ヲシテ苦痛ヲ生ゼシメント欲ス
 ルノ情ナリ、

第五、復讐ヲ遂ゲタル片ニハ、喜悅ノ狀、及ビ其
他各種ノ變態ヲ生ズ、
(四)心意上ヨリ之ヲ觀レバ、忿怒ハ、他人ノ上ニ苦
痛ヲ生ゼシメントスル衝動、并ニ苦痛ヲ生ゼシ
ムルコトニ由リテ起ル所ノ喜悅ヲ含有ス、
他人ヨリ損害ヲ受クル片ハ、先ヅ之ニ抵抗セ
ント欲ス、或ハ我身ヲ保護セシガ爲メ、我ヲ損
害シタル人ヲシテ、再ビ我ヲ損害スルコトヲ得
ザラシメント欲ス、是等ハ皆意志ナリ、忿怒ニ
アラズ、忿怒ノ情ハ、此ヨリ一層甚シキ者ニテ、

損害シタル人ヲ認識シ、其人ノ上ニ苦痛ヲ起
サシメ、其苦痛ノ度位ニ隨ヒテ満足ノ心ヲ生
ズルコトナリ、
(五)次ニ忿怒ノ種類ヲ枚舉セン、
劣等動物モ亦忿怒ノ狀ヲ表ハスコトアリ、猛獸
ノ類ハ、甚シク忿怒シテ、他ノ動物ヲ吞噬シ、牡
牛牡鹿ノ如キ菜食獸モ亦相鬪ヒテ死ス、其他
動物ノ勇氣アル者ハ、皆其身ヲ侵害スル者ニ
抗拒ス、
幼稚ノ者ヲ察スルニ、漸次ニ忿怒ノ情ヲ生ズ

ルニ似たり、其初メ苦痛ヲ感ズルヤ多少心痛
ヲ爲シテ感激スルニ過ギズ、然ルニ其漸ク長
大ナルニ及ビテ、始メテ嫌忌スル所ノ者ニ抗
拒セントスルノ傾向ヲ生ズ、
長大ナル人ニアリテハ、憤恚ノ情ニ、二種アリ、
曰ク、暴發忿怒、曰ク、沈思忿怒、是レナリ、暴發忿
怒ハ、忿怒ノ最モ單一ナル者ニテ、自然ノ偏性
ニ出ツ、蓋シ感激シ易キ性氣ヲ有シテ、未カ之
ヲ抑制スルノ慣習ヲ得ザル者ハ、此種ノ忿怒
ヲ生ズルノ傾向アリ、

沈思忿怒ハ、損害ノ如何ヲ考へ、且ツ回復ノ方
法、并ニ結果等ヲ慮ルコトナリ、乃チ損害ノ多少
及ビ損害セラレタル人ノ性質ニ隨ヒテ復讐
ノ度ヲ異ニスル者ニテ、若シ日常要件ニ於テ
損害ヲ受クル片ハ、忿怒ノ度ハ、其損害ニ因リ
テ生ズル苦痛ノ度ニ隨ヒテ大ナリ、又開化シ
タル人ニアリテハ、大抵損害セラレタル度ニ
隨ヒテ復讐スレバ、蕃民ニアリテハ、其回復ス
ル所、迥ニ其損害セラレタル所ヨリモ甚シキ
者ナリ、

憎惡ノ情ハ、原ト忿怒ニ出ツル者ニテ、他人ヨ
リ損害ヲ受ケテ之ヲ回復スルヲ能ハザルカ、
又ハ他人ニ我ヲ損害スベキ偏性アルヲ覺知
スル片ニ生ズ、時アリテハ、又嫌忌スル所ヲ、遂
ニハ憎惡スルニ至ルヲアリ、我ト競争スル者、
我ヨリ優等ナル者、及ビ權カヲ有スル者ヲ憎惡
スルハ、皆此ニ由リテ然ルナリ、
反情ハ、更ニ憎惡ヨリ甚シキ者ニテ、多少恐怖
ノ情ヲ含有ス、毒蛇ノ類ニ對シテ甚シキ反情
アルハ、大ニ之ヲ恐怖スルニ由ルナリ、人類ニ

對シテモ之ト同ジク、損害ヲ受ケズト雖モ、反
情ヲ生ズルヲアリ、即チ人種、宗教等ニ於テ反
情ヲ有スルガ如キ、是レナリ、
戦争、搏闘等ハ、憤恚ノ最モ甚シキ者ニテ、其成
分ノ如キハ、各自ノ稔知スル所ナリ、
第九、追求ノ情、
(一)凡ソ有意作用ニ、三種ノ感應アリ、第一、行爲ノ
快樂、及ビ苦痛、第二、目途ニ達スルノ快樂、若クハ
此ニ達セザルノ苦痛、第三、優等ナル權勢ヲ有ス
ルノ快樂、若クハ劣等ナル權勢ヲ有スルノ苦痛、

是ナリ、
 此外次第ニ目途ニ近ツク片、一種特異ノ情緒ヲ
 生ズ、之ヲ追求及ビ謀興ト名ツク、
 一山巔ニ登ル片、又ハ競馬ヲ見ル片、他事ヲ思ハ
 ス、唯其結果ノ如何ヲ待チ、徧ニ此ニ注意スル
 コアリ、然ルニ結果ヲ追求スル其間ニ、自ラ興
 味アル者ナリ、
 三、身体上ニ於テハ、追求スル片ノ狀貌ハ、第一、一
 箇ノ覺官、一箇ノ物ニ傾注ス、第二、全身ノ態度之
 ト協合シテ、諸筋ノ強ク牽張スルヲ覺ユルナリ、

闘争ニ注目スル時ノ如ク、追求スル所ノ者、見
 ルベキ片ハ、精神、視官ニ集マル、若シ又說話ヲ
 聽ク時ノ如ク、追求スル所ノ者、音響ニアル片
 一、精神、聽官ニ集マル、何レニアリテモ、諸筋ノ
 牽張ヲ免レザルナリ、要スル事ニ則テハ、
 三、心意上ニ於テハ、追求ハ、第一、目途ニ達セント
 欲スル動意ヲ含有ス、而シテ其動意ハ、目途ノ速
 ニ來エントスル片ニ於テ最モ強固ナリ、第二、心
 意ヲ客觀上ニ傾注シ、主觀上ノ照顧ヲ絶止スル
 ノ状態ヲ生ズルナリ、

意志ノ勢力ヲ激發セントセバ、必ス目途トス
 意ル所無カルベカラズ、既ニ目途トスル所アル
 以上ハ、其目途ニ近クハ、隨ヒテ意志ハ其勢
 カヲ増シ、追求ノ情ハ、其度ヲ強クス、
 總ベテ筋力ヲ用フルハ、客觀上ノ作用ニ屬ス
 ルヲ以テ、若シ筋力ヲ要スル事ニ傾注スル片
 ハ、其間主觀上ノ照顧ヲ失ハザルヲ得ズ、是レ
 蓋シ追求及ビ謀興ニ於テハ、免レザル所ナリ、
 又之ヲ考フルニ、主觀上ノ照顧ハ、神經ヲ損害
 スルヲ最モ甚シ、而シテ客觀上ノ事ハ、最モ長

ク耐忍スベシ、故ニ客觀上ヨリ主觀上ニ移リ、
 主觀上ヨリ客觀上ニ移ル片ハ、心意ヲ爽快ニ
 スルノ効アリ、
 (四)機運ニ由ル時、即チ前途ノ不定ナル時ハ、多少
 追求ノ興味ヲ添フ、
 目途ニ達シ得ベキトハ十分確定シタル時ハ、
 謀圖ノ興味殆ドアルヲナシ、即チ償還スベキ
 トニ定リタル負債ヲ請取ルニハ、絶エテ感激
 スル所ナキガ如キハ、コレガ為メナリ、然レモ
 若シ目途ニ達スル上ニ多少ノ疑アリテ、果シ

テ成就スルヤ否ヤヲ知り得ザル片ハ、幾分カ
恐怖ノ状ヲ生ズ、然ルニ若シ誤リナク目途ニ
達シ得ントスルヲ曉ル片ハ、喜悅ヲ生ジ、恐怖
ヲ減ジ、追求ノ興味愈深シ、
目途ニ達シ得ルヤ否ヤノ未だ確定セザル
甚多シ、其中ニ於テ最モ我ニ利アルヲアリ、
即チ達セント欲スル目途ハ、善良ナル者ニテ、
此ニ達スレバ、固ヨリ利益アリト雖モ、此ニ達
シ得ザルモ、亦我ニ損失ナキト、是レナリ、
此類ノ追求ハ、恐怖ノ情ヲ伴生セズシテ、却テ

大ニ希望ヲ誘起ス然レ片此希望ハ、固ヨリ未
だ確定セザル者ナリ、
若シ又目途ニ達シ得ザル片、大ナル損害ヲ生
ズルコトアル片ハ、追求ノ間ニ多少恐怖ノ情ヲ
生ゼザルヲ得ズ、故ニ目途ニ達シ得ルコト稍、不
定ニシテ、此ニ達シ得ザルモ、甚シキ損害ヲ生
ゼザル片ハ、追求ノ情、最モ快キ者ナリ、
(五) 追求ノ種類ヲ畧述セン、
劣等動物モ人類ト同ジク、追求ノ情ヲ有スト
見エ、他ノ動物ヲ捕フル片、愈勝利ヲ得レバ、愈

促迫ス、是レ其追求ノ情、次第ニ増加スルニ由
ルナリ、
五 人類ニアリテハ、漁獵上ノ追求ヲ第一トス、動
物ノ能ク逃遁スル者ヲ獲シトスル片ハ、其果
シテ捕ヘ得ルヤ否ヤハ、未ダ確定シ難キヲ以
テ、大ニ追求ノ興味ヲ生ズ、魚ヲ釣ルモ亦之ト
同一ナリ、
對敵ト鬪争スル片ハ、其結果ノ如何ヲ預知シ
難キガ爲メニ、心意殆ド此一點ニ嚮注ス、若シ
モ勝利ヲ得レバ、凱旋ノ喜ヲ來タスヲ以テ、追

求ノ間、興味ヲ生ズルヲ少シトセズ、故ニ此類
ノ鬪争ヲ以テ心目ヲ娛マシムルコト、古ヨリ往
々コレアリ、
作業ヲ興ス片ハ、多少謀圖ノ興味ヲ生ズ、然レ
モ若シ目途ニ達シ得ズキコトハ確定シテ、作事
ノ間、變化少ナキ片ハ、興味ヲ生ズルコト殆ド稀
ナリ、即チ車輪ヲ轉スルカ、又ハ船ニ荷物ヲ積
ムガ如キハ、皆然リ、實ニ心意ヲ感激シ易キ職
業ハ、目途ニ達シ得ルヤ否ヤノ未ダ確定シ難
キ者ニアリ、即チ危難多キ商業ノ如キ、是レナ

リ、
知識ヲ求ムルモ、亦謀圖ノ一種ニテ、幽微ヲ聞
キ創見ヲ為サントスルニ當リテハ、大ニ興味
ヲ生ズ、
總ベテ傍觀者ノ心意中ニハ、追求ノ情極メテ
多シ、即チ遊獵、競争等ヲ傍觀スル片ニハ、其結
果ノ來リ近ヅクニ隨ヒテ、益、心意ヲ傾注シ、當
局者ニ對シテ深キ同情ヲ生ズルニ至ル、殊ニ
競争ノ類ハ、最モ傍觀者ノ心意ヲ悦バシムル
ヲ以テ、此ニ由リテ衆人ノ娛樂ヲ來タスヲ、古

ヨリ之レアリ、
說話モ亦多少追求ノ情ヲ誘起スル者ニテ、若
シ說話ノ結末ニ近クナラントスル片ハ、傍聽
者ノ興味愈深キ者ナリ、
第十、知カノ情、
知カノ作用ハ、各種ノ快樂及ビ苦痛ト伴生ス
ルコトアリ、
知カヲ用フル時、身体爽快ナレバ、快樂ヲ生ズ、
然レモ若シ久シク繼續スル時ハ、神經コレガ
爲メニ疲羸ヲ來ス、

心身新説 卷之三
三 接近律ノ作用ハ、通常記憶スル時ニハ、毫モ情緒ヲ感激スルコトナシ、然レモ追憶シ難キコトアル時ハ、其困難ナルガ爲メニ苦痛ヲ生ズ、樂マシムルコトナシノ類ヲ再三誦讀スルモ、絶エテ情緒ヲ生ズルコトアルハ、記憶ノ爲メニ快樂苦痛ヲ憶スル所ノ事物ノ爲メナリ、追憶ニ勞スル片ハ、多少ノ懊惱ヲ生ズ、又心中ニ領解シ難キコトアルカ、又ハ構造シ難キコトアル片ハ、之レト同ジク苦痛ヲ免レズ、即チ書生

ノ問題ヲ解キ得ザル片、詩人ノ名句ヲ得ルニ苦ム片、思想家ノ妙理ヲ發揮スル能ハザル片、將校ノ未ダ其謀籌ヲ決セザル片等ハ、皆苦痛ヲ免レザル者ナリ、
三 知力ノ作用ニハ、猶ホ別ニ苦痛ヲ伴生スル者アリ、是レ他ナシ、矛盾即チ不整合ヨリ起ル苦痛ヲ謂フナリ、
矛盾即チ不整合ハ、追求スル所ノ目途ニ達シ得サラシムル者ナルヲ以テ、一種ノ苦痛ヲ生ゼシム、例ヘバ、病症ノ鑑別、若クハ訴訟ノ鑑定

ニ就キテ異説ヲ抱ク者アルキノ如キ、是レナ
 リ、他人ニハ關係アレ氏、自己ニハ絶エテ關係
 ナキ事項ニ於テ矛盾ヲ生スルキハ、其苦痛ノ
 度ハ、他人ニ對シテ有スル所ノ同情ノ深淺ニ
 因ル、又真理上即チ學術上ニ於テ矛盾ヲ生ズ
 ルモ、其結果ノ直接ニ實際上ニ及バザルキハ、
 世人ハ大抵之ヲ憂ヘズ、但、知カヲ研キタル人
 ハ、真理ヲ討究シ、隨ヒテ又ソレニ大ナル價格
 ヲ附スルヲ以テ、之レガ爲メニ苦痛ヲ生ズル
 ナリ、

(四) 駁雜中ニ類似ヲ認識スルヨリ生ズル所ノ快
 樂ハ、驚駭ノ爲メニ意氣發揚スルニ因ルトスル
 下ナレ氏、其最大部分ハ、知カノ困難ヲ脱スルニ
 因ルナリ、
 接近律ノ作用上ニハ、新奇ノ事少シト雖モ、類
 似律ノ作用ニ由リテ遠ク相隔リタル者ヲ始
 メテ聯合スルキハ、喜悦ノ情ヲ生ズ、是レ蓋シ
 心意ノ領解若クハ構造ノ困難ヲ脱スルニ因
 ルナリ、
 類似律ニ由リテ學術上ノ發明ヲナス片モ、亦

前條ノ理由ニ因リテ爽快ノ情ヲ生ズ、而シテ
實際上ノ發明ヲナス片モ、亦之ト同一ノ結果
ヲ來タスナリ、

第十一、同情、

(一)同情ハ、他人ノ感應ヲ想見シ、其感應ヲ自己ニ
起ル者ト同一視シテ、感動ヲ生ズルヲ謂フ、
(二)同情ヲ生ズルニハ、第一、嘗テ經驗シタル快樂
及ビ苦痛ノ記憶、第二、各感應ト各感應ノ表識ト
ノ聯合ヲ要ス、
(三)第一、自己ノ經驗シタル快樂苦痛ヲ能ク記憶

スルハ、蓋シ同情ヲ生ズルノ具因ナリ、故ニ自
ラ經驗セザル事ニ於テハ、同情ヲ生ズルヲナ
シ、又自ラ經驗シタル事ト雖モ能ク記憶セザ
ル片ハ、經驗セザル事ト同一ナリ、是ヲ以テ、兒
童ハ長大ナル人ノ喜悦心痛等ヲ見テ、之レガ
爲メニ同情ヲ生ズルヲ能ハズ、
第二、各感應ノ徵候ハ、外貌ニ現ハル、者ニテ、
觀察ニ由リテ之ヲ知ルヲ得、即チ各感應ヲ有
スル片ニ、如何ナル相貌ヲ表ハスカヲ察セバ、
他人ノ外貌ニ現ハル、状態ニ由リテ、其感應

ノ如何ナルカヲ領會スベキナリ、猶ホ委シク
 之ヲ言ハシ、我レ自ラ笑聲、嘻笑及ビ喜悦ノ
 狀ヲ生ズルハ、其心ノ快樂ヲ覺ユルニ因ルヲ
 以テ、若シ他人ノ此ノ如キ狀貌ヲ表ハスヲ見
 ルハ、亦其心ノ快樂ヲ覺ユルナラント推知
 スルナリ、
 (三)同情ハ、有意模倣ノ類ナリ、即チ他人ノ我眼前
 ニ於テ感應ヲ表ハスヲ見テ、我レ自ラ其感應ヲ
 表ハスヲナリ、
 若シ他人ノ感應ヲ表ハスヲ見ルハ、直ニ其

感應ヲ模倣セントス、假令ヒ他人ノ感應ヲ我
 レ自ラ反覆セザルモ、其感應ノ如何ナルカハ、
 領會シ得ルナリ、但我ガ同情ヲ誘起スル感應
 中ニ、我心ニ快キ者アルハ、試ニ之ヲ反覆ス
 ルコトアリ、即チ能辨家人態度ヲ模倣スルガ如
 キ是レナリ、
 (四)左ノ條々ハ、最モ同情ヲ助成スル者ナリ、
 (イ)他人ノ事件ニ甚シク心意ヲ嚮注スルコトナキ
 片ハ、同情ヲ生ジ易シ、
 (ロ)次ニ他人ノ我ニ對シテ表ハス所ノ感應ヲ

熟知スルヲ要ス、蓋シ感應ハ、各自其偏有スル所アリ、而シテ其偏有スル所ノ感應ハ、最モ發動シ易シ、隨ヒテ又此類ノ感應ヲ表ハス人ニ對シテハ、最モ同情ヲ生ジ易シ、即チ人ノ母タル者ハ、他人ノ母ト同情ヲ有スルガ如キ、是レナリ、若シ又之ニ反シテ、大ニ性質ヲ異ニシ、大ニ目途ヲ異ニスル人ノ間ニハ、同情ノ起ル、甚々少シ、是ヲ以テ、卑怯ナル人ハ、剛勇ナル人ノ心情ヲ酌量スル、能ハズ、冷心ナル人ハ、熱心ナル人ノ苦痛ヲ領會スル、能ハズ、

(ハ)感情ヲ表ハス人、我ト關係ヲ有スル、我ヲシテ同情ヲ生ゼシム、總ベテ崇敬尊重スベキ人ニ對シテハ、我ノ心情專ラ此ニ嚮注シ、其人ノ感應ヲ發表スルニ隨ヒテ、我ノ同情ヲ誘起ス、之ニ反シテ、忌嫌スベキ人ニ對シテハ、同情ヲ起ス、最モ難シ、之ヲ反情ト稱ス、即チ同情ニ對スルノ語ナリ、
(三)他人ノ言語、音聲、并ニ舉動ノ柔劇ナル度ニ隨ヒテ、我ノ同情ヲ鼓動スルニ強弱アリ、
(ホ)感應ヲ表現スルノ分明ナルト然ラザルト

ハ、大ニ觀者ヲ感ゼシムルニ關係アルヲナリ、故ニ分明ニ感應ヲ發表スルハ、俳優并ニ演說家ノ最モ要スル所ナリ、

(二)他人ノ感應ニ感ジ易キ人ト感ジ難キ人トアリ、是レ蓋シ其性氣ノ同ジカラザルニ出ツルナリ、此外教育及ビ慣習ノ差違モ、亦同情ノ強弱ニ關係ヲ及ボスヲアリ、

(五)同情ノ極度ハ、心意斷決シテ他人ノ爲メニスルヲ、猶ホ己レガ爲メニスルガゴトキニ至ル、抑、同情トハ、唯、他人ノ感ズルガ如クニ己レモ

亦感ズルメニヲ謂フニアラス、他人若シ苦痛ヲ有セバ、我レ他人ノ爲メニ之ヲ除カンコトヲ務メ、他人若シ快樂ヲ有セバ、我レ他人ノ爲メニ之ヲ増サンコトヲ欲スルノ傾向ヲ謂フナリ、

(六)凡ソ人タル者ハ、他人ノ快樂及ビ苦痛ニ對シテハ、能ク同情ヲ起スト雖モ、然レモ亦際限アルナリ、

他人ノ苦痛ヲ表ハスヲ見レバ、同情ヲ起サバ、ルヲ得スト雖モ、其原因并ニ其境遇ヲ知ルニアラザレバ、其同情ヲ起ストナシ、例ヘハ、亞歷

山大ガ、雄圖ヲ遂ゲ畢リテ流涕セシガ如キハ、
 恐ラクハ世人ノ中之ヲ聞テ同情ヲ起ス者、殆
 トアラザルベシ、
 (七)他人、我ニ對シテ同情ヲ表ハス片ハ、我が感應
 及ビ意見ハ、愈、以テ強固ナリ、
 我レ自ラ一種ノ情緒ヲ有スル片、他人若シ之
 ニ相應セバ、其感應ハ之レガ爲メニ一層深ク
 ナル者ナリ、即チ快樂ノ感應ヲ有スル片ナレ
 バ、其快樂ヲ増加シ、自重、柔和、權勢等ノ情ヲ有
 スル片ナレバ、其情ヲ強固ニスルナリ、苦痛ア

ル片モ、亦之レト同ジク、他人ノ同情ノ爲メニ
 益、其苦痛ヲ感スルニ至ル、蓋シ同情ハ、苦痛ヲ
 益ス爲メ、
 以ノ理ハ、前項ト異ナルコトナシ、即チ他人、我が
 苦痛ニ對シテ同情ヲ表ハス片ハ、多少我が心
 中ニ印象スル所アリ、殊ニ高貴ナル人又ハ多
 數ノ人ノ同情ハ、同情ヲ受クル人ノ感應ヲ十
 倍スル者ナリ、
 (八)同情ハ、同情ヲ表ハス人ノ間接ノ快樂トナル
 者ナリ、

蓋シ他人ニ對シテ同情ヲ生シ、他人ノ爲メニ
爲ス所アルハ、專ラ意志ノ作用ニ因ルニアラ
ズ、即チ快樂ヲ求メ苦痛ヲ避ケント欲スル心
志ニ出ツルニアラズ、果シテ然ラバ、同情ノ爲
メニ損失スル所アルハ、純然タル損失ニテ、償
却ヲ求ムルノ意ナキ者ナリ、然レモ間接ニハ同情ヲ起スト同情ヲ受ケタル
トハ、共ニ快樂ノ一因トナル者ニテ、更互ノ道、
此ニ由リテ起ル、即チ同情ヲ受ケタル人ハ、亦
他人ノ爲メニ同情ヲ起ストニ由リテ、他人ニ

償却スルヲ得、實ニ同情ヲ交換スルニ類シ、開明
ノ國ニアリテハ、快樂ノ一大原因ナリト謂フ
ベシ、假令此我ヲシテ同情ヲ起サズタル人
ヨリ十分ノ報酬ヲ受ケザルコトアルモ、社會一
般ノ讚美ヲ受ケルニ由リテ之ヲ償フヲ得、若
シ又社會一般ヲ讚美ヲ受ケザルハ、未來ノ
世界ニ於テ其報酬ヲ受ケタルコトアルニ思
惟スル者アリ、
第十二、理想ノ情、
實事ノ既ニ過キ去リタル後ニ、猶ホ其感情ニ

存在する。唯、心意ノ能力ノ由、起ル所ナリ、
 吾人ノ快樂苦痛ハ、理想上ノ者ヲ以テ最モ多
 情見記憶スルヨリ起ルナリ、
 (三) 第六、身体上ノ作用ハ、其影響ヲ情緒ノ上及
 少壯者、健康ナル者等、其身体壯強ナル者
 以テ心意モ亦隨テ發揚シ、喜悅ヲ情モ、繼續
 斷、且、強固ナリ、又飲料ニ由リテ、腦髓ニ激

動シ、以テ情緒ヲ誘起スベキナリ、故ニ若シ
 酒精ヲ服シテ、柔和ノ情若クハ、權勢ノ情ヲ起
 スルハ、殆ト笑フベキ度ニ至ルナリ、
 (三) 第二、性氣ノ殊ニ情緒ヲ生ズルニ適セルコト
 是レ、或ハ腦髓及ビ其他諸機關ノ稟賦ニ因ル
 コナラン、然レモ身体上ハ、姑ク之ヲ置キ、心意
 上ニ於テ、實ニ此ノ如キ性氣ノ存スルアリ、故
 ニ人ニヨリテハ、甚シキ情緒ヲ久シク保持ス
 ルコト能ハズ、

蓋シ感應ノ一偏ニ傾向シテ、意志及ヒ知カト背馳スル人ハ、他人ヨリ迥ニ優等ナル稟賦ヲ有スル者カ、然ラザレバ、氣カト知カトヲ缺ク者ナリ、

(四) 第三、又特別ナル情緒ヲ生ズルニ適セル體質アリ、

此ノ如キ體質ヲ有スル人ハ、實事ノ現存セザル時ト雖モ、其實事ニ屬セル情緒ヲ理想上ニ於テ表ハサントス、故ニ或ハ權勢ノ情、非常ニ盛ナル人アリ、而シテ權勢ノ情ヲ起スベキ實

事ナシト雖モ、理想上ニ於テ此情ヲ起スナリ、此外自重忿怒等ノ情ニ適セル體質アリ、皆理想上ニ於テ之ヲ保持スル者ト知ルベシ、

(五) 第四、理想ノ情ヲ助成スル心意上ノ要因ニ二種アリ、(イ) 類似セル情緒ノ現存スルヲ及ビ、(ロ) 知カ、是レナリ、

(イ) 類似セル情緒ノ現存スル片ハ、理想ノ情ヲシテ煥發セシム、故ニ天神ヲ崇敬スルノ情ヲ起サシムルニハ、先ツ儀式ニヨリテ宏壯、恐怖、及ビ柔和ノ情ヲ生ゼシムルニ若クハナシ、又

現存スル快樂ノ感覺ハ、理想上ノ幻夢ヲ生ゼ
シテ、即チ奏樂ノ妙音ハ、能ク聽者ヲシテ親愛、
尊重、光榮、富貴、願望等ノ理想ヲ起サシムルガ
如キ、是レナリ、
(口)知力ノ諸作用ノ中ニテ、理想ノ情ヲ助成ス
ル者ハ、接近律ヲ以テ第一トス、即チ旅行シタ
ル人ノ遺物ヲ見テ柔和ノ情ヲ起スガ如キハ、
接近律ノ作用ニ由ルナリ、
若シ自ラ偏愛スル所ノ情緒ノ他人ニ存スル
ヲ見ルハ、其情益、煥發ス、故ニ傳記ヲ讀ムハ

ニ事業ノ我ニ類スル者アルハ、最モ興味ア
ルヲ覺ユ、即チ將ニ政治社會ニ入ラントスル
壯年ノ者、政治家ノ傳ヲ讀ムハ、大ニ感奮ス
ル所アルガ如キ、是レナリ、
(六)第五、現在ノ實事ニ因リテ起ル感應ハ、之ト伴
行スル事情ノ爲メニ缺クル所アルナリ、
現在ノ成功ヲ以テ、理想即チ觀念ニ比スレバ、
其喜悅ノ情ヲ起サシムルヲ、更ニ甚シ、即チ友
人及ビ其他鍾愛スベキ物ノ現存スルハ、之ヲ
其現存セザルハニ想見スルヨリ幸福ヲ添フ

ル、過ニ多キ者ナリ、然レモ實事ノ現存スル者ハ、決シテ完全ナル者ニアラス、又純粹ナル者ニアラス、必ズ缺クル所アルナリ、凱旋ヲ得、又此驍將ハ、既ニ老衰シテ其榮光ヲ樂ムコト能ハズ、或ハ退隱シテ其榮譽ヲ分與スルコト能ハザルガ如ク、現在ノ榮華ニハ、必ズ之ヲ妨クル者アリ、適宜ノ顯榮ト雖モ、汚黷ヲ免レズ、實ニ現存スル鍾愛物ハ、具體的ノ人類ニシテ、抽象的ノ天仙ニアラザルヲ知ルベシ、又此ノ理想ハ、實事トハ大ニ異ナル者アリ、第一、事物

ハ、想見スルニハ、我レ自ラ其時ヲ選ビテ之ヲ爲スヲ得、我カ欲ゼサル片ニ實事ノ外ヨリ來ルトハ、格別ナリ、第二、理想ヲ爲スニハ、一切ノ妨害ヲ除キ、完全無缺ナルコトヲ想見ス、故ニ理想ハ、實事ヨリ過ニ純粹ナル者ナリ、

(七)總ベテ理想ノ情ヲ起スコトノ多キハ、右ノ數條ニ因ルコトナリ、
實事上ノ感應ハ、理想上ノ感應ヨリ勝レリ、然レモ理想上ノ感應ニシテ、或ハ實事上ノ感應ニ勝ルコトアリ、殊ニ白晝ハ、夢ト云フコトアリテ、

少壯ノ人ナドハ、種々ノ願望ヲ想見シ、昏迷ノ
 極、自己ノ家ヲ忘却スルニ至ル者アリ、又道德
 家ノ完全ナル模範ヲ想像シ、宗教家ノ思ヲ塵
 界ノ外ニ馳セテ、彼岸ノ中ニ入ルガ如キハ、皆
 理想ノ情ニ屬スル者ナリ、

心理新説卷之三終

